

ことができる。

ある所で男が鎌で殺された。衣服所持品は盗まれていない。検官は怨恨とみて男の妻を呼び、彼に敵はいなかったかと質した。甲という男が以前借金にきたが夫は断ったという。それで検官は役人を駆出し、付近の住人に自分の家の鎌を持ってくるよう、もし鎌を隠すような者がおれば犯人とみなすと告げた。やがて七八十本の鎌が持込まれた。検官はこれらを地面に並べた。気候が暑かったので蠅が飛廻り、ある一本の鎌に集った。これは誰のものかと質したら、前に借金を乞うた甲のものであった。検官は、汝の鎌には微量の血液が着いているから蠅が集った。汝が殺した証拠だと迫って自白させた、等々。大岡裁きの原形をみる。

最後に一つだけ注文すれば、せっかくの貴重書の訳出公刊である。せめて『洗冤集録』だけでも原文を併載いただけただけなら資料価値はさらに高まったであろうと惜しまれる。

(小関 恒雄)

〔群衆出版社、北京、一九九〇年、B5判、三五四頁、  
本国定価八〇・〇〇円〕

陸上自衛隊衛生学校修親会編

『陸軍衛生制度史〔昭和編〕』

わが国における軍隊衛生部の揺籃は、明治元年五月二十三日の軍務官病院掛の設置であるが、ある程度組織的に整備されたのは

明治四年七月五日、兵部省内に設けられた軍医寮である。翌五年二月二十七日、兵部省は廢されて陸・海軍二省がおかれ、軍医も陸海に分かれたので、この日に、第二次世界大戦の終結で解体されるまでの八〇年に近い歴史をもつ陸軍衛生部が発足したといえるよう。

本書はこの八〇年の歴史のうち、昭和初年から昭和二十年の敗戦に至るまでの陸軍衛生制度の変遷を、陸上自衛隊衛生学校の立部伊承二佐、山田省一佐らが中心となって編纂したもので、主要内容は

第一編 衛生機関の廢置

第二編 官制・職制制度

第三編 官等・進級制度

第四編 補充・召募制度

第五編 教育制度

の、五編より成り、とかく意味乾燥になりがちな制度の変革を、明治以来のそれと併記したり、また、ある制度の成立過程などにも言及して、興味深く読めるよう配慮されている。

この種のもは本書の他に、過去二回刊行されている。一つは大正二年、森林太郎医務局長時代の『陸軍衛生制度史』で、明治初年から同四十四年十二月までの期間を扱い、本文一四八七頁の大冊で、実質的に陸軍衛生制度史の第一巻と言えよう。もう一つは昭和三年、山田弘倫医務局長の監修になる『陸軍衛生制度史』第二巻で、明治四十五年一月から大正十四年十二月までを対象とし、本文一、六二五頁に及ぶ労作である。従って本書は「昭和

篇」とあるが、『陸軍衛生制度史』第三巻に相当するもので、ここに明治建軍以来の陸軍衛生部の歴史を貫く一本のバックボーンが完成したことになる。

これら三巻の記述内容・排列はよく似ているが、一、二巻は三巻に比べより多くの事項をとりあげている。参考までに紹介すると、第一編（衛生機関の廃置）、第二編（官制・職規）、第三編（官等・定員）、第四編（補充・召募・進級）、第五編（服役・分限・命課）、第六編（教育）、第七編（撰兵）、第八編（恩給・帰郷転地療養）、第九編（伝染病予防）、第十編（報告式）、第十一編（衛生材料）、第十二編（赤十字）、第十三編（服制・服装）、第十四編（給与）である。第三巻で扱われていない項目については、将来なんらかの形で刊行されるのを期待している。

本書は始めから順を追って通読するといったものでなく、ある制度——例えば軍医の階級やその呼称の変遷——を調査するのに大変有用である。今まで私は「軍医団雑誌」に随時掲載されている「衛生部関係法規の改正」欄をコピーして研究の資としていたが、本書の刊行によって居ながらにして正確でまとまった資料に當ることができて大きな便宜をえている。

しかし、衛生部の歴史は制度史だけでは十分とはいえない。また、制度史に関しても、三巻ともに平時の制度のみ扱い、戦時のそれは記載されていない。戦時と平時では大きな違いがあり、これらについては明治以来の戦役ごとに公刊された『〇〇戦役衛生史』などでその空白を埋める必要がある。昭和に関しては、『大東亜戦争陸軍衛生史』全九巻が刊行されている。他に、従軍した

軍医、師団衛生隊、野戦病院、兵站病院などの回想記や記録も多数出版されているので、大変な仕事ではあるがこれらを参考にし、陸軍衛生部の全史が完成されることを願っている。

最近の研究で、江戸末期より明治初年にかけての日本の近代医学教育は、オランダやプロシアの軍医学校のカリキュラムによって行われ、その影響は現在でも古い国立大学医学部などに残っていること、初期の軍医たちは地方の任地で中心的な医学指導者になっていた事実などから、日本の近代医学・医療史は陸海軍の衛生史を除いては成りたない。この意味で軍陣医学の研究のみならず、近代医療史研究の進歩に果す本書の役割は大きいと考えられ、医史学研究者にとって重要な座右の書であると言えよう。

最後にいささか蛇足ではあるが、私の知っている範囲で海軍医務部の歴史に関する刊行物を紹介しよう。

『海軍衛生制度史』第一巻、大正十四年、海軍軍医会発行。内容は第一編（衛生機関の変遷）、第二編（職制）、第三編（軍医部員の官等・定員及補充）で、第四編（教育）、第五編（防疫）、第六編（兵食）は第二巻として刊行された。

『海軍奉仕五〇年回顧録』、高杉新一郎、有馬玄著。非売品。

『海軍医務・衛生史』全四巻、有馬玄監修小池猪一郎編著。昭和六十年、柳原書店。

『海軍軍医学校追想録』、桜医会発行。

（佐久間温巳）

〔原書店、一九九〇年、A5判、七四八頁、定価一二、〇〇〇円〕